



2023

2

Tokyo Philharmonic Orchestra Season 2023

2023シーズン定期演奏会

東京フィルハーモニー交響楽団



©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます
歴史を紡ぎ未来へと奏でるオーケストラの調べを
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

オフィシャル・サプライヤー

SONY

Rakuten

マルハニ

LOTTE

ゆうちょ銀行

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。

第152回東京オペラシティ定期シリーズ

2月22日(水)19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

第980回サントリー定期シリーズ

2月24日(金)19:00開演 サントリーホール

第981回オーチャード定期演奏会

2月26日(日)15:00開演 Bunkamura オーチャードホール

2/22

2/24

2/26

指揮：ミハイル・プレトニョフ

ピアノ：イム・ユンチャン*

コンサートマスター：依田真宣

ベートーヴェン：

ピアノ協奏曲第5番 変ホ長調 Op. 73『皇帝』* (約40分)

- I. アレグロ
- II. アダージョ・ウン・ポーコ・モツソ
- III. ロンド：アレグロ―ピウ・アレグロ

ー 休憩 (約15分) ー

チャイコフスキー：

マンフレッド交響曲 Op. 58 (約55分)

- I. レント・ルグーブレーモデラート・コン・モート
- II. ヴィヴァーチェ・コン・スピリト
- III. アンダンテ・コン・モート
- IV. アレグロ・コン・フォーコ

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)|

独立行政法人日本芸術文化振興会

協力：Bunkamura (2/26)



※演奏中や曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。

※演奏開始間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なるお席への着席をお願いすることがございます。

※演奏中のご入場は、かたくお断りいたします。楽章間のご入場については、楽曲の進行により係がご案内いたします。ご入場いただけない場合もございますので、ご了承ください。

※演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。

※演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

出演者プロフィール



©上野隆文

指揮

ミハイル・プレトニョフ

Mikhail Pletnev, conductor

東京フィルハーモニー交響楽団 特別客演指揮者

一言では説明できない多才な芸術家。ピアニスト、指揮者、作曲家として魔法のような才能で、世界中の聴衆を魅了している。1957年ロシアのアルハンゲリスク生まれ。1978年、21歳でチャイコフスキー国際コンクールのゴールド・メダルおよび第1位を受賞し、国際的な脚光を浴びる。驚くべき技巧、深い知性に裏づけられた演奏、完璧にコントロールされた美しい音色で、カリスマ的人気を誇る現代最高のピアニストの一人として活躍。

ドレスデン国立歌劇場管弦楽団、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団ほか数々のオーケストラを指揮。ボリショイ・オペラでの『スペードの女王』指揮で大成功を収めているほか、コンサート形式のオペラ指揮も行っている。

1990年ロシア内外の個人、団体より資金を得、ロシア史上初めて国家から独立したオーケストラとしてロシア・ナショナル管弦楽団(RNO)を設立。指揮者として東京フィルハーモニー交響楽団には2003年7月に初めて客演、以来定期的に招かれ、2015年4月より特別客演指揮者に就任。2022年には新たなオーケストラ、ラフマニノフ国際管弦楽団(RIO)を創設。



©Lisa-Marie Mazzucco

ピアノ

イム・ユンチャン

Yunchan Lim, piano

「イムはこの曲の魂に到達した」——ラ・セーナ

「イムは百万人に一人の才能である」——ダラス・モーニング・ニュース

2022年第16回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールにおいて、史上最年少（18歳）でゴールド・メダルを受賞、併せて聴衆賞、最優秀新曲演奏賞を受賞。

韓国の始興市生まれ。現在、韓国芸術総合学校に在籍。7歳でピアノを始め、翌年にソウル・アーツ・センターの音楽アカデミーに入学。13歳で韓国芸術英才教育院のオーディションに合格し、教師・指導者のソン・ミンスに出会う。翌年2018年、若いピアニストのためのクリーブランド国際ピアノコンクールで2位及びショパン特別賞を受賞。同年のクーパー国際コンクールでは最年少の参加者として注目を集め、3位と聴衆賞を獲得。クリーブランド管弦楽団との共演の機会を提供される。2019年には最年少の15歳で韓国のユン・イサン国際コンクールで優勝及び二つの特別賞を受賞。

2022-2023年のクライバーン優勝者ツアーでは4大陸への訪問を予定。2022年12月にはサントリーホールにて日本デビューを果たした。

楽曲紹介

ベートーヴェン

解説＝沼口 隆

ピアノ協奏曲第5番 変ホ長調 Op. 73『皇帝』

1808年12月22日、ベートーヴェン(1770-1827)はアン・デア・ウィーン劇場で大規模な演奏会を開催した。新聞で「すべて新作、未公開」と告知された曲目の中には、交響曲第5・6番をはじめ、ピアノ協奏曲第4番、ハ長調ミサ曲からの抜粋(ドイツ語歌唱)、『合唱幻想曲』などが含まれていた。演奏面では成功とは言い難かったようだが、錚々たる曲目は、いわゆる「傑作の森」の集大成と呼ぶに相応しい。ピアノ協奏曲第5番の作曲に着手したのは、この演奏会の直後のことだったと推定されている。

注目すべきは、ベートーヴェンがこの演奏会でピアノ協奏曲と合唱幻想曲のソリストを務め、ピアノ独奏用の幻想曲も披露したことである。合唱幻想曲のピアノ独奏も独奏用幻想曲も基本的に即興だったと考えられる。この創作性の極めて高い演奏体験が、新たなピアノ協奏曲への創意に火をつけたとの推論は充分に成り立つだろう。

ピアノ協奏曲第5番は、それまでの協奏曲で定石であった即興演奏を含んでおらず、カデンツァもすべて記譜されている。しかし、興味深いことに、即興を含まないにも拘わらず、全体は即興性に満ちている。曲頭からピアノ独奏が活躍するという意味では、完全なる独奏で主題を提示する第4番の方が斬新だという見方も成り立つ。第5番の冒頭はオーケストラの総奏であるし、**第1楽章**に関して言えば、そもそもピアノが主要主題を明瞭に提示することはない。第5番における新奇性は、冒頭からほとばしり出てくるような即興性であり、それが引き起こす躍動感である。

第2楽章においても、ピアノは当初、オーケストラが提示した素材には目もくれず、ひとり静かに語り始める。独特の説得力を持つてはいるが、音階下行に若干の手を加えた程度の節回しであり、主題として彫琢されたものではない。変奏された主要主題が奏されるのは、だいたい後になってからで、これもまた幻想曲風のパッセージへと移行してゆく。

ロ長調という主調に対して突飛な調の第2楽章は、末尾における口音から変ロ

音への印象的な「ずり下がり」で軌道修正し、直結する**第3楽章**への移行を準備する。何かを模索するような分散和音上行は、実際に主題に繋がってゆくのだが、即興プロセスを写し取ったかのようなのである。ロンドと題されているが、ハ長調やホ長調など、かなりの遠隔調にも自在にわたり歩き、こうしたある種の不確実性もまた即興を感じさせる要素となっている。

【作曲年代】1809年 【初演】1811年1月13日、ウィーンのロブコヴィッツ侯爵邸にてルドルフ大公の独奏による 【楽器編成】フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦楽5部、独奏ピアノ

ぬまぐち・たかし（音楽学）／東京藝術大学准教授。主要な研究領域はベートーヴェンをはじめとする18～19世紀のドイツ語圏の音楽。共著に『楽譜を読む本～感動を生み出す記号たち～』（ヤマハミュージックメディア）ほか。共訳に『ベートーヴェンのピアノ・ソナタ第32番 Op. 111 批判校訂版：分析・演奏・文献』（音楽之友社）ほか。

チャイコフスキー マンフレッド交響曲 Op. 58

解説＝山本明尚

バイロンの劇詩『マンフレッド』の筋書きを元にした交響曲を書いてみないか——先輩作曲家バラキレフから、チャイコフスキー（1840-1893）は1882年と1884年の二度にわたって提案を受けた。この構想は、1868年に標題音楽の傑作『幻想交響曲』で知られるベルリオーズに持ちかけて以来、バラキレフがずっと温めていたものだったが、改めてチャイコフスキーこそがきっと「素晴らしく」この構想を仕上げてくれるだろうという確信があった。しばらくの間、多忙なチャイコフスキーは様々に理由をつけて仕事を断っていたが、1885年春、仕事の波が途切れたのを機にバラキレフの進言を受けようと『マンフレッド』に取り掛かる。当初は渋々だったチャイコフスキーも、徐々に作業を通じて作品に魅力を感じ、1885年9月22日（露暦）に全曲を完成させた。1886年の初演は聴衆・批評家両方から温かく迎えられ、舌鋒鋭いことで知られるツェーザリ・キューイも「テクスチャと管弦楽法は見事で、我が国の交響楽の宝庫への新しい貢献に感謝するのみ」と絶賛の言葉を惜しまなかった。

本作の特徴は何と言っても、各楽章に明確な内容が定められていることである。初版の楽譜に掲載された筋書きは、バラキレフの言葉を借りれば理想を維

持できない「現代の人類の病理」を象徴するもので、チャイコフスキーが『スペードの女王』、『フランチェスカ・ダ・リミニ』、第4番以降の交響曲など、自作で何度か陰に陽に取り組んできた「運命／宿命という問題」が、筋書きにも音楽にも描き出されていると言えるだろう。

第1楽章は、「宿命的な存在の問題、絶望的苦悩と罪を犯した過去の記憶に苛まれ」、絶望するままにアルプスを彷徨う主人公マンフレッドを表現する。2つの主題を持つロンド形式により、序奏と第一主題でマンフレッドの姿を、穏やかな第二主題では彼が死に追いやってしまったかつての想い人アスターティの追憶を描く。マンフレッドの主題は各楽章で再現され、全曲の中で主人公としての立ち位置を持つ。

第2楽章では、軽やかなパッセージによる幻想的な曲調によって、滝の虹のしぶきの中に現れるアルプスの妖精が表現される。中間部ではロシアの民謡的な素材が展開される。

「素朴、貧乏、自由気ままな山人の生活の図」とであるという**第3楽章**は、8分の6拍子、ト長調という調性、ホルンのソロ、素朴なリズム、バグパイプの模倣や舞台裏で響く鐘の音などによって、伝統的な「牧歌」の様式をなぞっている。その一方で、中途の劇的な展開や第1楽章第二主題の回想からは、チャイコフスキーが標題で説明したもの以上の内容の豊かさを感じざるを得ない。

第4楽章は2つの部分からなる。前半は地獄の酒宴を描いており、乱痴気騒ぎとロシアの舞踊をそれぞれ想起させる2つの主題が対置されている。後半ではこれまでの性格的主题が次々と現れる。呼びかけに応じてアスターティの亡霊が現れ、主人公の苦悩が回想されながらも、彼は赦され、荘重で穏やかな死による救済が訪れる。

【作曲年代】1885年 【初演】1886年3月23日(露暦11日)、モスクワ、マックス・エルトマン スデルファーの指揮による 【楽器編成】フルート3(3番はピッコロ持ち替え)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、バスクラリネット、ファゴット3、ホルン4、トランペット2、コルネット2、トロンボーン2、バストロンボーン、チューバ、ティンパニ、打楽器(タンブリン、大太鼓、トライアングル、シンバル、タムタム、鐘)、ハープ2、弦楽5部、オルガン

やまもと・あきひさ／音楽学者。専門は19世紀後半～20世紀初頭のロシア芸術音楽。現在、東京藝術大学大学院博士課程およびロシア国立芸術学研究所に在籍。モスクワを拠点として研究活動を行う。2020、21年度公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション奨学生。日本音楽学会、日本ロシア文学会、ロシア・フォークロアの会各会員。

The 152nd Tokyo Opera City Subscription Concert

Wed. Feb. 22, 2023, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

The 980th Suntory Subscription Concert

Fri. Feb. 24, 2023, 19:00 at Suntory Hall

The 981st Orchard Hall Subscription Concert

Sun. Feb. 26, 2023, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall

Mikhail Pletnev, conductor

Yunchan Lim, piano

Masanobu Yoda, concertmaster

Ludwig van Beethoven:

Piano Concerto No. 5 in E-flat major, Op. 73 "Emperor"

(ca. 40 min)

- I. Allegro
- II. Adagio un poco mosso
- III. Rondo. Allegro - Più allegro

— intermission (ca. 15 min) —

Piotr Ilyich Tchaikovsky:

Manfred Symphony, Op. 58 (ca. 55 min)

- I. Lento lugubre - Moderato con moto
- II. Vivace con spirito
- III. Andante con moto
- IV. Allegro con fuoco

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra

Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |

Japan Arts Council

In Association with **Bunkamura** (Feb. 26)



- Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- If you enter just before the concert, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
- Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
- Late admittance will be refused during the live performance.
- Hold applause please. Please cherish the "afterglow" at the end of each piece for a moment before your applause.

22
Feb

24
Feb

26
Feb

Artist Profile



©Takafumi Ueno

Mikhail Pletnev, conductor

Special Guest Conductor of
the Tokyo Philharmonic Orchestra

Mikhail Pletnev is an artist who cannot be classified in one word. Known as a genius and one of the greatest pianists of our time and also as conductor and composer. Born in Archangel, Russia in 1957. Awarded the 1st prize and Gold Medal at renowned Tchaikovsky Competition in 1978 when he was 21 years old.

The resulting friendship with Mikhail Gorbachev in time gave Pletnev the opportunity to found Russian National Orchestra (RNO) in 1990.

Pletnev is also often invited to conduct noted orchestras such as Staatskapelle Dresden, Royal Concertgebouw Orchestra, and others. Starting from July 2003, he has been invited to conduct the Tokyo Philharmonic Orchestra and was appointed as Special Guest Conductor from 2015. As a composer, he has been composing numerous works among which there is a cello sonata written for Steven Issarlis. His CDs have been released from Deutsche Grammophon and Pentatone Classics.

In 2022, he founded the Rachmaninoff International Orchestra (RIO).



©Lisa-Marie Mazzucco

Yunchan Lim, piano

“Lim got to the soul of the piece.” — La Scena

“Lim is a one-in-a-million talent.” — Dallas Morning News

22
Feb

24
Feb

26
Feb

In June 2022, Yunchan Lim became the youngest person ever to win gold at the Van Cliburn International Piano Competition.

Born in Siheung, Korea, Yunchan Lim began piano lessons at age 7, when it was time to choose an after-school activity; he entered the Music Academy of the Seoul Arts Center the next year and quickly became immersed in his musical studies. He auditioned for and was accepted into the Korea National Institute for the Gifted in Arts at age 13, where he met his teacher and mentor, Minsoo Sohn. Yunchan entered the international music stage a year later, in 2018, winning second prize and the Chopin Special Award in his first-ever competition, the Cleveland International Piano Competition for Young Artists. Also that year, he stood out as the youngest participant in the Cooper International Competition, where he won both third prize and the audience prize, and was provided the opportunity to perform with the Cleveland Orchestra. The next year, 2019, brought more accolades, when, at the age of 15, he was the youngest to win Korea’s Isang Yun International Competition, also taking home two special prizes.

His 2022–2023 inaugural tour as Cliburn winner will take him across four continents.

In Dec 2022, he made his Japan debut at Suntory Hall.

Program Notes

Text by Robert Markow

Ludwig van Beethoven: Piano Concerto No. 5 in E-flat major, Op. 73 "Emperor"

Although Beethoven did not affix a subtitle to this work, it is, in its grandeur and splendor, indeed an emperor among concertos. The name, which, strangely enough, is not used in German-speaking countries, appears to have been bestowed by the pianist and publisher John Cramer, a close friend of Beethoven. Another theory has it that a French officer called out "C'est l'empereur" during a majestic passage at the first Viennese performance. In any case, Beethoven would certainly not have had in mind to honor Napoleon: the French, led by their Emperor, were once again at war with Austria, and in the spring of 1809, France occupied Vienna. "Nothing but drums, cannons, human misery of every sort!," wrote Beethoven on July 26 to his publisher in Leipzig. But the spirit of heroism nonetheless infuses this music, and the *Emperor* Concerto, over and above its inherent musical qualities, stands as a stirring testament to man's heroic will to survive in trying times. The last of Beethoven's five piano concertos was finished in late 1809, but the first performance waited until January 13, 1811 in Vienna (not November 28 in Leipzig, as most sources indicate). The soloist was the concerto's dedicatee, the Archduke Rudolph - friend, student, and patron of the composer.

The *Emperor* Concerto opens in resplendent majesty: three imperious chords are sounded by the orchestra, each in turn elaborated by the soloist in "fountains and cascades" (to quote music critic Michael Steinberg's apt phrase) of arpeggios, trills, scales and broken octaves. Following this impressive introduction comes the first subject – a big, sonorous, richly scored theme punctuated with martial elements. The mysterious second theme occurs first in tentative tones in E-flat minor, then immediately afterwards in a flowing legato horn duet in E-flat major. When the piano

finally returns, the two principal themes and other material as well are elaborated and developed in a mighty discourse between soloist and orchestra.

The slow movement is one of Beethoven's most profound. A hushed mood of sublime simplicity offers refreshing, soothing contrast to the militant grandeur and exuberance of the first movement. At its conclusion, in a transitional passage, Beethoven outlines the principal theme of the next movement, and suddenly, without a break, the jubilant finale, a rondo, bursts forth in full panoply. Although nominally in rondo form, there is only a single contrasting episode, a lyrical theme of regal bearing heard twice in the course of the movement, and only by the soloist. Eventually the movement's main theme expires, almost as if exhausted from its relentless repetitions, only to revive in one final, exuberant burst of energy.

LUDWIG VAN BEETHOVEN: Born in Bonn, December 16, 1770; died in Vienna, March 26, 1827

Work composed: 1809 **World premiere:** January 13, 1811 in Vienna at Palais Lobkowitz with Archduke Rudolph of Austria as the soloist

Instrumentation: 2 flutes, 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 2 horns, 2 trumpets, timpani, strings, solo piano

22
Feb24
Feb26
Feb

Piotr Ilyich Tchaikovsky: *Manfred* Symphony, Op. 58

Excepting possibly Tchaikovsky's Third Symphony, *Manfred* remains the least played and least known of this composer's symphonies. It is also the longest, the most difficult to perform, the only one with an overt program, and the only one without a chronological number. But it boasts an intensity of emotional content, sophistication of contrapuntal development, and richness of orchestral sonority unsurpassed by any of Tchaikovsky's numbered symphonies. Many connoisseurs consider it Tchaikovsky's best symphony, and newcomers

to the work are invariably swept immediately into its orbit and left emotionally exhausted by the end nearly an hour later.

Tchaikovsky's symphony is a musical portrait of the famed "Byronic hero" – that darkly brooding, disturbed, lonely outcast who harbors some terrible secret. This figure appealed to Russians generally and to Tchaikovsky in particular, not least due to the nature of his own deep dark secret, for Manfred's, like Tchaikovsky's was sexual in nature: for Manfred, it was an illegitimate daughter he fathered by his sister-in-law; for Tchaikovsky, it was the "crime" of homosexuality.

Byron's epic poem appeared in 1817 and quickly captivated all Europe. Composers wrote all kinds of music to *Manfred*: incidental music (Schumann), opera (Reinecke), ballet (Montsalvatge) and numerous piano pieces, including a *Manfred Meditation* by the philosopher Nietzsche.

The direct inspiration for Tchaikovsky's *Manfred* was another musical setting of a Byronic masterpiece, Berlioz' *Harold in Italy*, based on Byron's *Childe Harold*. The Russian critic and journalist Vladimir Stasov heard the work during Berlioz' second visit to Russia in 1867-68, and afterwards assembled a literary program suitable for a four-movement symphony. Stasov sent the idea to the composer Mily Balakirev, who in turn passed it on to Berlioz. But Berlioz was tired, discouraged, and in poor health (he died the year after). Fourteen years passed. Balakirev then suggested to Tchaikovsky that he write a *Manfred* Symphony. At first he declined, then two years later accepted. This brings the date to 1884, which in the chronology of Tchaikovsky's numbered symphonies puts the *Manfred* between Nos. 4 and 5. The symphony was written quickly during a six-month period in 1885, and received its premiere in Moscow on March 23, 1886 conducted by Max Erdmannsdörfer.

Audiences are often perplexed as to why Tchaikovsky assigned no number to his *Manfred* Symphony. There are no definitive answers, only probable causes. The most likely explanation is that, unlike his six numbered symphonies (with and without subtitles), this one has

an undisguised program throughout. Also, not one movement utilizes traditional sonata form (it is more like a symphonic poem in four parts). And since it is obviously modeled after another one-of-a-kind work, Berlioz' *Harold in Italy*, there seems little point in considering it as one of a series. Even the instrumentation is more akin to the ballets than to the other symphonies in its use of harps, bells, cornets, English horn and even an organ for the final apotheosis.

The symphony opens with a dour theme in the low tones of bass clarinet and bassoons, a theme that continuously develops in a mood rife with anxiety and restless energy, and that may be associated with the title character. This theme becomes the *idée fixe* which runs through the entire symphony as Berlioz had done in both his *Symphonie fantastique* and *Harold in Italy*. The second subject, presented initially in the muted strings, then with the addition of the bass clarinet, surely represents the fair Astarte, Manfred's beloved. The movement ends with music of searing passion.

Following the long, immensely powerful first movement, with its predominantly dark colors and heavy orchestration, some kind of relief is needed. Tchaikovsky provides this with a movement of light, almost elfin character, conjuring up a mood out of some fantastical supernatural world. Indeed, here is portrayed the realm of the Alpine fairy, who appears to Manfred from within the rainbow of a waterfall. In this music are found some of Tchaikovsky's most imaginative and delicate orchestral textures. The contrasting central Trio section is a song for the fairy, obviously a Slavic one.

The third movement is a genre piece describing the peaceful mountain folk – simple, unpretentious, untouched by the despair and compulsive introversion of Manfred. The pastoral setting is evoked by the solo oboe. When Manfred appears on the scene, the tranquil mood changes.

The finale returns us to the world of Manfred's traumas. Tchaikovsky allows himself the indulgence of depicting a wild bacchanal, a scene

22
Feb24
Feb26
Feb

not found in Byron's poem. We are in the realm of the Prince of the Underworld. The infernal dance is interrupted by deeply somber music, then is resumed in a fugue. When Astarte appears as a vision, the orchestral colors become an ethereal glitter. Manfred makes a final, agonized appeal for understanding, but succumbs to death. Release from earthly sorrow comes in the form of a grandiose finale with organ.

PIOTR ILYICH TCHAIKOVSKY: Born in Votkinsk, May 7, 1840; died in St. Petersburg, November 6, 1893

Work composed: 1885 **World premiere:** March 23, 1886 in Moscow, conducted by Max Erdmannsdörfer.

Instrumentation: 3 flutes (3rd doubling on piccolo), 2 oboes, English horn, 2 clarinets, bass clarinet, 3 bassoons, 4 horns, 2 trumpets, 2 cornets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (tambourine, bass drum, triangle, cymbal, tam-tam, bell), 2 harps, organ, strings

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, **Robert Markow** now writes program notes for orchestras as well as for numerous other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal's McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

2023 season Subscription Concerts Lineup

"Alongside its overwhelming plethora of culturing offerings, the Japanese capital is host to several orchestras, the most prestigious among them being the Tokyo Philharmonic. This season combines venerable elder musicians with fiery young soloists and conductors" -- Bachtrack

In 2023, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 112th anniversary of Japan's first symphony orchestra. Join us for the ultimate concert experience! Single tickets for concerts from February to May are now available.

March

conductor: Andrea Battistoni, chief conductor **organ: Yuka Ishimaru**

Thu, Mar 9, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Fri, Mar 10, 19:00
at Suntory Hall

Sun, Mar 12, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

Berlioz:
the *Roman Carnival Overture*
Alfredo Casella:
Italia, Rhapsody for orchestra
Saint-Saëns:
Symphony No. 3 "*Organ*"

Single tickets available

May

conductor: Mikhail Pletnev, special guest conductor

Wed, May 10, 19:00
at Suntory Hall

Fri, May 12, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, May 14, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

Rachmaninov:
The Rock
Isle of the Dead
Symphonic Dances
<The 150th anniversary of Rachmaninov's birth>

Single tickets available

June

conductor: Tadaaki Otaka, conductor laureate **piano: Masaya Kamei**

Fri, Jun 23, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, Jun 25, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

Tue, Jun 27, 19:00
at Suntory Hall

Atsutada Otaka:
IMAGE for orchestra
Rachmaninov:
Piano Concerto No. 2
Rachmaninov:
Symphony No. 1

Single tickets will be available from April on

July

conductor: Myung-Whun Chung, honorary music director

Sun, July 23, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

Thu, July 27, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Mon, July 31, 19:00
at Suntory Hall

Verdi:
opera *Otello* in concert style
Libretto by Arrigo Boito (in Italian),
after Shakespeare.

Gregory Kunde, Otello
Atsuko Kobayashi, Desdemona
Dalibor Jenis, Iago and more

Single tickets will be available from April on

October

conductor: Chloé Dufresne violin: **Lina Nakano**

Wed, Oct 18, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Thu, Oct 19, 19:00
at Suntory Hall

Sun, Oct 22, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

Lili Boulanger:
Of a Spring Morning
Saint-Saëns:
Violin concerto No. 3
Berlioz:
Symphonie fantastique

Single tickets will be available from April on

November

conductor: Andrea Battistoni, chief conductor cello: **Haruma Sato**

Fri, Nov 10, 19:00
at Suntory Hall

Sun, Nov 12, 15:00
at Bunkamura Orchard Hall

Thu, Nov 16, 19:00
at Tokyo Opera City Concert Hall

Tchaikovsky:
The Tempest
Variations on a Rococo Theme
Hamlet
Romeo and Juliet Fantasy Overture

Single tickets will be available from April on

| Inquiries about tickets.

Tokyo Phil Ticket Service tel: 03-5353-9522
(weekdays 10:00-18:00, closed on weekends and holidays)

Tokyo Phil WEB Ticket Service <https://www.tpo.or.jp/en/>



Infection Control at Tokyo Phil

In our concerts, we assign top priority to the safety and health of all those involved, including the audience, the performers, and the staff members. From rehearsal to performance, we have been taking measures on stage, backstage, in dressing rooms, and in audience lobbies in accordance with the guidelines for the prevention of the spread of new coronaviruses published by the government of Japan, the Tokyo Metropolitan Government, and other related organizations.



We request that our audience disinfect their hands before entering the venue and maintain social distance with each other in lining up.



The audience's temperature is checked with non-contact thermometer and so on.

Photo by K. Miura / Takafumi Ueno



**Face Masks
Required**



**Physical
Distancing**



**Sanitizing
Stations**



**Frequent Cleaning
and Disinfecting**



**Improved Indoor
Ventilation**

Please wear a mask at all times in the hall.

Please refrain from talking in the lobby or in the auditorium.

Please keep ample distance between audience members in the lobby.

Please disinfect your hands frequently.

Our staff will disinfect and wipe down the venue.

Adequate ventilation is provided in the auditorium.

Thank you for your Cooperation!

東京フィルだより — 2023年シーズン今後の定期演奏会

3月の定期演奏会

第153回東京オペラシティ定期シリーズ

3月9日(木)19:00 東京オペラシティ コンサートホール

第982回サントリー定期シリーズ

3月10日(金)19:00 サントリーホール

第983回オーチャード定期演奏会

3月12日(日)15:00 Bunkamuraオーチャードホール

指揮：アンドレア・バッティストーニ(首席指揮者)

オルガン：石丸由佳*



アンドレア・バッティストーニ ©上野隆文

ベルリオーズ／序曲『ローマの謝肉祭』

カゼッラ／狂詩曲『イタリア』(カゼッラ生誕140年)

サン＝サーンス／交響曲第3番『オルガン付き』*



◀ Youtube
マエストロからの
メッセージ

5月の定期演奏会

第984回サントリー定期シリーズ

5月10日(水)19:00 サントリーホール

第154回東京オペラシティ定期シリーズ

5月12日(金)19:00 東京オペラシティ コンサートホール

第985回オーチャード定期演奏会

5月14日(日)15:00 Bunkamuraオーチャードホール

指揮：ミハイル・プレトニョフ(特別客演指揮者)



ミハイル・プレトニョフ ©K. Miura

ラフマニノフ／幻想曲『岩』

ラフマニノフ／交響詩『死の島』

ラフマニノフ／交響的舞曲

(ラフマニノフ生誕150年)

【料金】1回券 SS¥15,000 S¥10,000 A¥8,500 B¥7,000 C¥5,500

※東京フィルフレンズ(年会費無料・随時入会受付中)入会で、定価の10%割引で購入いただけます(SS席を除く)。

お申込み・お問合せは
東京フィルチケット
サービスまで

03-5353-9522 (10時～18時／発売日を除く土日祝休)
<https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)

3月定期演奏会の聴きどころ



アンドレア・バッティストーニ指揮

**イタリアとフランスの美質が相乗効果で拡大する
バッティストーニならではの管弦楽プログラム**

文＝香原斗志（音楽評論家）

©上野隆文

イタリアとフランスの奥深い組み合わせ

東京フィルの首席指揮者、アンドレア・バッティストーニの美点を挙げればキリがないが、なかでも以下の3つが抜きん出ているのは疑いない。故国イタリアの音楽に特徴的な情熱やカンタービレを横溢させる力。エスプリと称されるフランスらしい軽妙洒脱、かつ色彩的な表現力。複雑な音楽を俯瞰して、その構造を合理的に把握し、ダイナミックかつ精妙に再現する手腕。

3月定期演奏会は、これらの美質がからみ合い、相乗効果も期待される曲がたくさんに並べられている。イタリアの音楽とフランスの音楽が、たがいにあたえ合った影響も聴きとれるように組み合わせられているのである。

まずはエクトル・ベルリオーズ(1803-1869)の序曲『ローマの謝肉祭』(1843年)。「序曲」と名づけられてはいるが、失敗に終わったオペラ『ベンヴェヌート・チェリーニ』(1838年初演)の主要なモチーフを再構成した、単独の管弦楽曲だ。ちな



エクトル・ベルリオーズ
(1803-1869)

みに、チェツリーニとはルネサンス末期に強烈な自負心をむき出しにした彫刻家で、オペラはその自伝をもとに書かれていた。華々しい序章ではじまり、前半は夢想するように展開し、後半はイタリア中南部の郷土舞踊「サルタレロ」をもとに、目まぐるしく展開する。

まさしくイタリアらしい情熱が、ベルリオーズの大規模で色彩的な管弦楽で装飾されている。こうした音楽の輝かしさをさらに際立てるのがバットィストーニの十八番であることは、いうまでもない。



アルフレード・カゼッラ
(1883-1947)

続いて、今年が生誕140年にあたるイタリアの作曲家、アルフレード・カゼッラ(1883-1947)の狂詩曲『イタリア』(1909年)が演奏される。近年、再評価が進んでいるカゼッラの管弦楽曲は、レスピーギにも通じる色彩的なオーケストレーションが魅力で、なかでも交響的狂詩曲である『イタリア』が名高い。

これをフランス人の作品ではさんだ選曲は心憎い。トリノ生まれのカゼッラだが、留学した先はパリ音楽院で、作曲はガブリエル・フォーレに師事している。また、この『イタリア』は1910年のパリ万博のために

書かれた曲である。

『ローマの謝肉祭』はフランス人が描いたイタリアなら、こちらはフランスで学んだイタリア人が、フランスのために描いたイタリア。こうして伊仏の異なったからみ合いを、バットィストーニの鮮やかなタクトで聴けるのだ。

曲の後半はナポリ歌謡「フニクリ・フニクラ」の素材が、さまざまに編曲されて大胆な盛り上がりを見せる。フランスのエスプリに支えられたイタリアらしい情熱。バットィストーニが高鳴らせるラテン的な高揚感に圧倒されるに違いない。

壮麗な曲からてらいなく力を引き出す バッティストーニ

そしてメインディッシュが、カミーユ・サン＝サーンス
(1835-1921)の交響曲第3番『オルガン付き』(1886
年)である。

2歳でピアノを弾き、3歳で作曲したなど、天才神
話に事欠かないサン＝サーンス。51歳の円熟期に書
いた交響曲がこの『オルガン付き』で、バッティストー
ニはこの曲を「19世紀末の最新鋭のオーケストラ・
ショーピース」で、「音楽のエッフェル塔のような曲」だと語る。



カミーユ・サン＝サーンス
(1835-1921)

サン＝サーンスがその特性を熟知していたオルガンを使いながら、明快な旋律線
と澄んだ響きを、まさにエッフェル塔のように重ねていった曲で、事実、作曲家自身
が「私のすべてをつぎ込んだ曲」だと語っている。それが証拠に、その後の人生で
サン＝サーンスは二度と交響曲を書くことはなかった。

こうした壮麗な曲をてらいなく、作品の奥底から力を湧き上げながらダイナミック
に聴かせるところに、バッティストーニの真骨頂がある。

ところで、カゼッラを教えたフォーレは、サン＝サーンスの教え子である。イタリアと
フランスの複雑な連関を、曲の組み合わせにさり気なく織り込むのも、さすがはバ
ッティストーニ。そんなマエストロの特性を知り尽くし、強い絆で結ばれた東京フィル
とのコンビだから、知性と感性の双方が、強く刺激されるコンサートになるのはまち
がいない。

香原斗志(かはら・とし)／オペラを中心にクラシック音楽全般について、さまざまな媒体に執筆。著
書に『イタリアを旅する会話』(三修社)、『イタリア・オペラを疑え!』(アルテスパブリッシング)。毎
日新聞クラシックナビに「香原斗志『イタリア・オペラ名歌手カタログ』」、「モーストリークラシック」
誌に「知れば知るほどオペラの世界」を連載中。歴史評論家の顔も持ち、近著に『カラー版 東京で
見つける江戸』『教養としての日本の城』(共に平凡社新書)がある。

提携都市公演 | 軽井沢町町制施行100周年記念 【軽井沢大賀ホール2023春の音楽祭】

期待の指揮者とチェリストのオープニングを飾る共演!!

日時 4月29日(土・祝)16:00開演(15:30開場)

会場 軽井沢大賀ホール

出演 指揮:角田鋼亮 チェロ:上野通明*

管弦楽:東京フィルハーモニー交響楽団

曲目 モーツァルト/歌劇『フィガロの結婚』序曲

チャイコフスキー/ロココの主題による変奏曲*

ドヴォルザーク/『ボヘミアの森』より森の静けさ*

シューマン/交響曲第1番『春』

エルガー/威風堂々第1番

料金(全席指定) SS席 ¥10,000 S席(1階・2階) ¥8,000 A席 ¥6,000

B席 ¥5,000 C席(2階立見席) ¥3,500

W席(2階合唱席) ¥4,000



©Hikaru Hoshi

西武グループ presents

世界の巨匠の指揮とヴィオラ、気鋭のヴァイオリンと至高の協演!!

日時 5月4日(木・祝)16:00開演(15:30開場)

会場 軽井沢大賀ホール

出演 指揮・ヴィオラ:ピンカス・ズーカーマン*

ヴァイオリン:三浦文彰*

管弦楽:東京フィルハーモニー交響楽団

曲目 モーツァルト/歌劇『魔笛』序曲

モーツァルト/ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲*

ベートーヴェン/交響曲第7番

料金(全席指定) SS席 ¥12,000 S席(1階・2階) ¥10,000 A席 ¥8,000

B席 ¥6,500 C席(2階立見席) ¥4,500

W席(2階合唱席) ¥5,000



©Cheryl Mazak

©Yuji Hori

チケット問合せ

軽井沢大賀ホールチケットサービス 0267-31-5555(休館日を除く10時~18時)

※座席をお選びいただけます。公演1日前まで電話予約を承ります。※C席(2階立見席)、W席(2階合唱席)車椅子専用席は軽井沢大賀ホールチケットサービスでのみ取扱い

東京フィルチケットサービス 03-5353-9522(平日10時~18時/土日祝休)

公演に関するお問合せ 軽井沢大賀ホール 0267-42-0055

2023シーズン 今後の定期演奏会

新しい年を迎え、東京フィルの2023シーズンがいよいよ始まりました。今季も名匠と俊英のタクトのもと、若く才能あふれるソリストたちとの協演をお届けしてまいります。

“オペラの東京フィル”が誇る《オペラ演奏会形式》上演は、名誉音楽監督チョン・ミョンフンによるヴェルディの傑作『オテロ』（7月定期演奏会）。7月定期を含む下半期の1回券は4月発売。他にも要注目の演目が盛りだくさんです。お聴き逃しなく！

6・7・10・11月定期の1回券発売スケジュール

最優先（賛助会員・定期会員様）	4月8日（土）10:00～ ※お電話のみ
優先（東京フィルフレンズ会員様）	4月15日（土）10:00～ ※お電話のみ
WEB優先（インターネットから どなたでも1割引き）	4月15日（土）10:00～4月24日（月）23:59
一般	4月25日（火）10:00～

3月	指揮: アンドレア・パッティストーニ (首席指揮者) オルガン: 石丸由佳* 第153回 3月9日(木)19:00 東京オペラシティ コンサートホール 第982回 3月10日(金)19:00 サントリーホール 第983回 3月12日(日)15:00 Bunkamuraオーチャードホール	ベルリオーズ／序曲『ローマの謝肉祭』 カゼッラ／狂詩曲『イタリア』 (カゼッラ生誕140年) サン＝サーンス／ 交響曲第3番『オルガン付き』*	1回券発売中
5月	指揮: ミハイル・プレトニョフ (特別客演指揮者) 第984回 5月10日(水)19:00 サントリーホール 第154回 5月12日(金)19:00 東京オペラシティ コンサートホール 第985回 5月14日(日)15:00 Bunkamuraオーチャードホール	ラフマニノフ／幻想曲『岩』 ラフマニノフ／交響詩『死の島』 ラフマニノフ／交響的舞曲 (ラフマニノフ生誕150年)	1回券発売中

6月 指揮: 尾高忠明 (桂冠指揮者) ピアノ: 亀井聖矢* (2022年ロン・ティボー国際音楽コンクールピアノ部門優勝) 第155回 6月23日(金) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール 第986回 6月25日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール 第987回 6月27日(火) 19:00 サントリーホール	尾高惇忠／オーケストラのための『イメージ』 ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番* ラフマニノフ／交響曲第1番 (ラフマニノフ生誕150年) 1回券 4月発売
7月 指揮: チョン・ミョンフン (名誉音楽監督) 第988回 7月23日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール 第156回 7月27日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール 第989回 7月31日(月) 19:00 サントリーホール	ヴェルディ／歌劇『オテロ』 ✦ オペラ演奏会形式 ✦ オテロ: グレゴリー・クンデ デズデーモナ: 小林厚子 イアーゴ: ダリボール・イエニス 他 1回券 4月発売
10月 指揮: クロエ・デュフレヌ (2021年プザンソン国際指揮者コンクール聴衆賞、オーケストラ賞) ヴァイオリン: 中野りな* (2022年仙台国際音楽コンクール優勝) 第157回 10月18日(水) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール 第990回 10月19日(木) 19:00 サントリーホール 第991回 10月22日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール	リリ・ブーランジェ／春の朝に (リリ・ブーランジェ生誕130年) サン＝サーンス／ヴァイオリン協奏曲第3番* ベルリオーズ／幻想交響曲 1回券 4月発売
11月 指揮: アンドレア・バッティストーニ (首席指揮者) チェロ: 佐藤晴真* (2019年ARDミュンヘン国際音楽コンクール優勝) 第992回 11月10日(金) 19:00 サントリーホール 第993回 11月12日(日) 15:00 Bunkamuraオーチャードホール 第158回 11月16日(木) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール	チャイコフスキー／幻想曲『テンペスト』 チャイコフスキー／ ロココの主題による変奏曲* チャイコフスキー／幻想序曲『ハムレット』 チャイコフスキー／ 幻想序曲『ロメオとジュリエット』 (チャイコフスキー没後130年) 1回券 4月発売

■ お問い合わせ 東京フィルチケットサービス

Tel 03-5353-9522 (平日10時～18時・土日祝日休／
発売日の土日祝は10時～16時)
URL www.tpo.or.jp/ (24時間受付・座席選択可)

詳細は



午後のコンサート。 2023シーズンのラインナップ

大人気シリーズ「午後のコンサート。」2023シーズンの開幕が近づいてまいりました。オーケストラの名曲と音楽家のお話とおきのお話で楽しむ午後のひととき。今年もぜひ、東京フィルの午後のコンサートをお楽しみください。ただ今、シーズン4回セット券好評発売中です。皆様のご来場をお待ちしております。

渋谷の午後のコンサート 会場:Bunkamuraオーチャードホール 開演14:00

5月7日(日) 第17回

指揮とヴィオラとお話:

ピンカス・
ズーカーマン

ヴァイオリン: 三浦文彰



©Cheryll Mazak

©Yuji Hori

9月18日(月・祝) 第19回

指揮とお話: 角田鋼亮

ゲスト(ピアノ):

園田隆一郎、
三ツ橋敬子



©Hikaru Hoshi

©Earl Ross

7月9日(日) 第18回

指揮とお話: 小林研一郎

ヴァイオリン: 服部百音

※7月6日「平日の午後のコンサート」と一部同演目です。



©山本倫子

©Yuji Inagaki

11月5日(日) 第20回

指揮とお話: 円光寺雅彦

ピアノ: 清塚信也

※11月6日「平日の午後のコンサート」と同演目です。



©三浦典一

©Kunito Watanabe

※東急百貨店本店跡地の再開発に伴い、「渋谷の午後のコンサート」は当面の間、週末の開催になります。

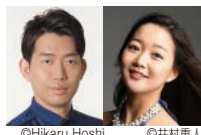
平日の午後のコンサート 会場:東京オペラシティ コンサートホール 開演14:00(託児可)

5月1日(月) 第29回

指揮とお話: 角田鋼亮

ピアノ: 五十嵐薫子

2022年ジュネーヴ国際音楽コン
クール第3位



©Hikaru Hoshi

©井村重人

8月7日(月) 第31回

指揮とお話: 出口大地

ピアノ: 清水和音



©hiro.pberg_berlin

©Mana Miki

7月6日(木) 第30回

指揮とお話: 小林研一郎

ピアノ: 小林亜矢乃

※7月9日「渋谷の午後のコンサート」と一部同演目です。



©山本倫子

©Hiromi Uchida

11月6日(月) 第32回

指揮とお話: 円光寺雅彦

ピアノ: 清塚信也

※11月5日「渋谷の午後のコンサート」と同演目です。



©三浦典一

©Kunito Watanabe

休日の午後のコンサート 会場:東京オペラシティ コンサートホール 開演14:00(託児可)

4月15日(土) 第96回

指揮とお話: 和田一樹

サクソフォン: 上野耕平



©RINZO

9月3日(日) 第98回

指揮とお話: 小林研一郎

ピアノ: 小林亜矢乃



©上野隆文

©Hiromi Uchida

6月11日(日) 第97回

指揮とお話: 出口大地

ヴァイオリン: 松田理奈



©hiro.pberg_berlin

©Akira Muto

12月3日(日) 第99回

指揮とお話: 円光寺雅彦

ヴァイオリン: 廣津留すみれ



©K.Miura

©Ryuto Kurokawa

曲目等詳細は東京フィルウェブサイトまたは別途配布するご案内をご覧ください。

午後のコンサート。 2023シーズンの発売スケジュールについて

チケット料金	S席	A席	B席	C席
4回セット券(定価)	¥20,520	¥16,560	¥11,160	¥8,400
(東京フィルフレンズ会員)	¥18,468	¥14,904	¥10,044	¥7,560
1回券(定価)	¥5,700	¥4,600	¥3,100	¥2,100
(東京フィルフレンズ会員)	¥5,130	¥4,140	¥2,790	¥1,890

※1回券は4回セット券の販売後、残席ある場合のみ販売いたします。

◆1回券の発売スケジュール

	4月・5月・6月公演	7月・8月・9月公演	11月・12月公演
最優先※お電話のみ (賛助会員様、定期会員様)	3/7(火)10:00	5/16(火)10:00	8/22(火)10:00
優先※お電話のみ (東京フィルフレンズ会員様)	3/11(土)10:00	5/20(土)10:00	8/26(土)10:00
優先(WEB優先発売)	3/11(土)10:00～ 3/21(火・祝)23:59	5/20(土)10:00～ 5/29(月)23:59	8/26(土)10:00～ 9/4(月)23:59
一般発売	3/22(水)10:00	5/30(火)10:00	9/5(火)10:00

※1回券は4回セット券の販売後、残席ある場合のみ販売いたします。

◆東京フィルフレンズ会員とは:

入会金・年会費無料の「東京フィルフレンズ」にお申込みいただくと、東京フィルの主催公演チケットを一般発売日に先駆けて「優先発売日」に定価の10%割引でご購入いただけます。メールまたはお電話で東京フィルチケットサービスまでお申し込みください。

◎メール:住所・氏名・フリガナ・電話番号・生年月日をご記入の上、concert@tpo.or.jpまでメールでお送りください。

◎お電話:東京フィルチケットサービス 03-5353-9522までお申し込みください。

※優先予約・割引でのお求めは東京フィルチケットサービスまでお電話にてご連絡ください。



お問合せ・お申込み 東京フィルチケットサービス

03-5353-9522 (平日10時～18時/土日祝休 発売日の土日祝のみ10時～16時で営業)



Photo Reports 2023年1月の演奏会より

2023シーズン開幕を飾る1月定期演奏会は名誉音楽監督チョン・ミョンフンが登場。22年目のシーズンを迎え、マエストロが「クラシック音楽の偉大さを語るとき、その中でもクラシック音楽を代表する最高傑作」と語る2作品をお届けしました。

写真＝上野隆文(1/26,27)、藤本崇(1/29)

1月定期演奏会(1/26,27,29)

指揮：チョン・ミョンフン
(名誉音楽監督)
コンサートマスター：三浦章宏
シューベルト／
交響曲第7番『未完成』
ブルックナー／
交響曲第7番(ノヴァーク版)



リハーサル初日はマエストロの70歳のお誕生日の翌日。オーケストラのサプライズ演奏による「ハッピーバースデー」に照れくさそうに笑顔を見せました



マエストロは昨年インタビューで「こうした作品の奥深さを見つけるには時間がかかります。お客様に、私たちが成長し続けていることをお見せできればと思います」と語っていました



シューベルト『未完成』木管セクション



ブルックナー「第7番」より、テノール＆バス・チューバ(ワグナーチューバ)群



ブルクナー「第7番」ではマエストロの機敏な指揮に導かれ、オーケストラが大きな渦のようなうねりを生み出しました



最終日オーチャード定期演奏会のカーテンコールにて、オーケストラに拍手を送るマエストロ

響きの森クラシック 小ホール特別編〈第4回〉(2/3)

文京シビックホール 小ホール

出演：東京フィルハーモニー交響楽団メンバーによるホルンアンサンブル(高橋臣宜、齋藤雄介、磯部保彦、大東 周、木村俊介、田場英子、塚田 聡、豊田万紀、山内研自、山本友宏)

ガブリエリ／第7旋法による8声のカンツォン第2番

プッチーニ(大橋晃一編)／歌劇『トゥーランドット』セレクション 他

第55回千葉市定期演奏会(2/8) 千葉市民会館 大ホール

指揮：三ツ橋敬子／ヴァイオリン：岡本誠司*

コンサートマスター：近藤 薫

メンデルスゾーン／

序曲『美しいメルジーネの物語』*

ヴァイオリン協奏曲、交響曲第4番『イタリア』

【ソリスト・アンコール】 J.S.バッハ／無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第3番よりガヴォット

【オーケストラ・アンコール】 レスピーギ／リュートのための古風な舞曲とアリア第3組曲より第1曲イタリアーナ



アルハンブラの思い出

明治大学政治経済学部 特任教授／
元ベナン共和国駐劔日本国特命全権大使
小西 淳文



東京フィルのゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第15回は、国際協力機構：JICA在任中よりたびたび東京フィルの演奏会に来場され、パートナー会員としてもご支援くださっている小西淳文様。2016年から2020年までベナン共和国駐劔日本国特命全権大使としても活躍されました。ご自身のギター演奏や、ベナン共和国赴任直前に来場されたコンサートでの思い出を綴ってくださいました。



田舎育ちのスポーツ少年だった私は、クラシック音楽が好きで、中学生になって通信教育でクラシックギターを学びました。夢は「アルハンブラの思い出」を弾けるようになること。それから15年が経ち、新婚時代に家内とアルハンブラ宮殿を旅した時の私のはしゃぎようは異常だったそうです。城壁の中で、ようやく弾けるようになった曲を弾ければ良かったのですが、それはかないませんでした。なぜか?って。

実は、二人の結婚披露宴で、ショパンのノクターンを家内のピアノ、私のギターのアンサンブルで演奏したのですが、ギターの弦が突然切れて、私は真っ青に！家内はソロで演奏を続けましたが、あとで、母から「あんな恥ずかしい思いをしたことはない」と激怒され、ギターを取り上げられるといった大失態をしてしまっていたからです。トホホ。

そうそう、演奏中に弦が切れる!! 東京フィルハーモニーの定期演奏会で、第1ヴァイオリンの2列目の演奏者が突然、自分のヴァイ

オリンを3列目の演奏者に渡し、替わりに3列目の演奏者のヴァイオリンを手にし、演奏を続ける中、同じようにして次々とヴァイオリンの交換が行われ、弦が切れたであろう第2演奏者のヴァイオリンを手にした最後列の演奏者が舞台裏に消えていきました。しばらくして、彼は弦を張り直したヴァイオリンを手に戻ってきて、先ほどとは逆の方向にヴァイオリンの交換が次々とおこなわれました。このような珍しい光景を目にすることはコンサートホールでないと経験できません。

ある定期演奏会で、ノルウェーのオペラ歌手ベリト・ゾルセットの北欧の青空のような澄み切ったソプラノが素晴らしく、翌日フランス人教師に、昨日のノルウェー人オペラ歌手は最高に素晴らしかったと話したところ、「なぜ、イタリアやフランスではないの?」と訊かれて、「だって、パール・ギュントを作曲したのはノルウェーの作曲家、グリーグだったもの」と答えたところ、彼女は「なるほど」とうなずいていました。

自分でコンサートチケットを買うとなると、好きな曲や演奏家に偏ってしまうのですが、定期演奏会では、新たな曲や指揮者、演奏家に触れることができ、新しい発見がいつもあり、感激・感謝至極です。皆様にも会員になられることをお勧めしたいです。

小西淳文(こにし・きよふみ)

1983年東京大学文学部社会科学科卒業後、国際協力事業団(現:国際協力機構:JICA)入団。JICAセネガル事務所長、上級審議役等を経て、2016年ベナン共和国駐節日本国特命全権大使を拝命。2021年4月から明治大学政治経済学部特任教授として勤務中。



ベナン共和国ウィダー市の教会



ダホメ王国(現ベナン共和国)独立闘争時の王様だったベハンジンの銅像

梅の開花の便りが届く季節となりました。

皆さまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

今月はベートーヴェンのピアノ協奏曲とチャイコフスキーの名曲を
名匠の指揮でお送りいたします。

才能あふれる新星ピアニストとの共演をぜひご堪能ください。

引き続き、当楽団を何卒よろしくお願い申し上げます。



東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史

賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。
ここに法人ならびに個人賛助会員（パートナー会員）の皆様のご芳名を掲げ、
改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サプライヤー（敬称略）

ソニーグループ株式会社	代表執行役 会長 兼 社長 CEO	吉田 憲一郎
楽天グループ株式会社	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役 会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	牛腸 栄一
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	池田 憲人

法人会員

賛助会員（五十音順・敬称略）

(株)IIIH 代表取締役社長 井手 博	(株)インターテキスト 代表取締役 海野 裕	(公財)オリックス宮内財団 代表理事 宮内 義彦
(株)アイエムエス 取締役会長 前野 武史	ANAホールディングス(株) 代表取締役社長 芝田 浩二	カシオ計算機(株) 代表取締役 社長 CEO 樫尾 和宏
(医)相澤内科医院 理事長 相澤 研一	(株)NHKエンタープライズ 代表取締役社長 松本 浩司	キヤノン(株) 代表取締役会長兼社長 CEO 御手洗 富士夫
アイ・システム(株) 代表取締役会長 兼 社長 松崎 務	大塚化学(株) 特別相談役 大塚 雄二郎	(株)グリーンハウス 代表取締役社長 田沼 千秋
(株)アシックス 取締役会長 尾山 基	(株)オーディオテクニカ 代表取締役社長 松下 和雄	コスモエネルギーホールディングス(株) 代表取締役社長 社長執行役員 桐山 浩

サントリーホールディングス(株)

代表取締役社長 新浪 剛史

信金中央金庫

理事長 柴田 弘之

新菱冷熱工業(株)

代表取締役社長 加賀美 猛

(株)J.Y.PLANNING

代表取締役 遅澤 准

(株)滋慶

代表取締役社長 田仲 豊徳

(株)ジーヴァエナジー

代表取締役社長 金田 直己

菅波楽器(株)

代表取締役社長 菅波 康郎

相互物産(株)

代表取締役会長 小澤 勉

ソニーグループ(株)

代表執行役 会長 兼 社長 CEO 吉田 憲一郎

ソニー生命保険(株)

代表取締役社長 萩本 友男

(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント

代表取締役社長CEO 村松 俊亮

(株)大丸松坂屋百貨店

代表取締役社長 澤田 太郎

都築学園グループ

総長 都築 仁子

東急(株)

取締役社長 高橋 和夫

東京オペラシティビル(株)

代表取締役社長 長島 誠

東レ(株)

代表取締役社長 日覺 昭廣

トッパン・フォームズ(株)

代表取締役社長 添田 秀樹

トヨタ自動車(株)

代表取締役社長 豊田 章男

DOWAホールディングス(株)

代表取締役社長 関口 明

(株)ニチケアパレス

代表取締役社長 秋山 幸男

(株)ニフコ

代表取締役会長 山本 利行

日本ライフライン(株)

代表取締役社長 鈴木 啓介

(株)パラダイスインターナショナル

代表取締役 新井 秀之

富士電機(株)

代表取締役会長 CEO 北澤 通宏

(株)不二家

代表取締役社長 河村 宣行

(株)三井住友銀行

頭取CEO 高島 誠

三菱地所(株)

執行役社長 吉田 淳一

三菱倉庫(株)

相談役 宮崎 毅

(株)三菱UFJ銀行

特別顧問 小山田 隆

ミライラボバイオサイエンス(株)

代表取締役 田中 めぐみ

(株)明治

代表取締役社長 松田 克也

森ビル(株)

代表取締役社長 辻 慎吾

ヤマトホールディングス(株)

代表取締役社長 長尾 裕

(株)山野楽器

代表取締役社長 山野 政彦

ユニオンツール(株)

代表取締役会長 片山 貴雄

(医)ユベンシア

理事長 今西 宏明

楽天グループ(株)

代表取締役会長兼社長 三木谷 浩史

(株)リソー教育

取締役会長 岩佐 実次

後援会員

(株)アグレックス

代表取締役社長 畝森 達朗

(医)エレル たにぐちファミリークリニック

理事長 谷口 聡

欧文印刷(株)

代表取締役社長 和田 美佐雄

(有)オルテンシア

代表取締役 雨宮 睦美

(医)カリタス菊山医院

理事長 加藤 徹

(医)だて内科クリニック

理事長 伊達 太郎

(宗)東京大仏・乗蓮寺

代表役員 若林 隆壽

(一社)凸版印刷三幸会

代表理事 金子 眞吾

(株)トレミール

代表取締役 茶谷 幸司

(株)日税ビジネスサービス

代表取締役会長兼社長 吉田 雅俊

富士通(株)

代表取締役社長 時田 隆仁

本田技研工業(株)

取締役 代表執行役社長 三部 敏宏

三菱電機(株)

執行役社長 漆間 啓

ご支援の御礼とお願い

2020年からのコロナ禍において、また昨今の社会情勢において皆様からたくさんの励ましのお言葉とともに、東京フィルに温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は今も社会に大きな影響を及ぼしています。東京フィルもまた、2020年2月下旬から数か月にわたり、出演する演奏会のすべてが中止・延期となりました。その後も感染状況により公演の中止や延期、チケットの販売停止など、さまざまな対応を余儀なくされました。東京フィルの財源は演奏料収入がほとんどを占めるため、演奏会およびチケット収入の壊滅は団体存続の危機に直結いたします。指揮者と楽団員、スタッフはPCR検査や抗原検査を何度も受けて公演に臨んでおり、これらの検査に掛かる費用もまた楽団の財政を圧迫しています。

今後も、当団は、芸術がもたらす感動がどんな時代にも社会を豊かにするとの信念のもと、お客様ならびに関係者の安全と安心を最優先に、状況を注視しながら活動を続けてまいります。皆様のご寄附が大きな力となります。皆様におかれましては、改めて楽団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、いっそうのご支援・ご助力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただけますと幸いです。個人として1万円以上、法人として30万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会（次ページ）も併せてご覧ください。

金融機関名	口座番号	口座名義
ゆうちょ銀行（郵便振替）	00120-2-30370	公益財団法人 東京フィルハーモニー 交響楽団
三井住友銀行・ 東京公務部（096）	普通預金 3003239	

※ ご寄附の金額は自由に設定いただけます。

※ 振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※ 領収証書が必要な方は、お手数ですがお振込後に、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項をご記入の上、下記へご送付ください。

寄附申込書はこちらからも取得いただけます。

https://www.tpo.or.jp/support/img/support_TPO.pdf



【ご支援のお問合せ／寄附申込書 送付先】

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階
Fax 03-5353-9523 Eメール: partner@tpo.or.jp
Tel 03-5353-9521（土日祝日を除く10時～18時）

東京フィル 賛助会 会員募集中

2023年に東京フィルハーモニー交響楽団は創立112年を迎えます。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは1月をシーズンのスタートに据え、年間を通じて皆様の暮らしに音楽をお届けしてまいりました。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、今後も社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動を続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化・複雑化するグローバル社会において不可欠な心の豊かさ・寛容さを育み、次世代へと続く文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

賛助会(法人／パートナー(個人))会員の種別

種別		年会費1口
オフィシャル・サプライヤー		詳細はお問い合わせください。
法人会員	賛助会員	50万円
	後援会員	30万円
	ワンハンドレッドクラブ	100万円
	フィルハーモニー	50万円
パートナー会員	シンフォニー	30万円
	コンチェルト	10万円
	ラプソディ	5万円
	インテルメッツォ	3万円
	プレリュード	1万円

※東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「主催者カウンター」または東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。資料をお送りいたします。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 (担当: 星野^{かのまた}・鹿丈)

電話: 03-5353-9521 (平日10時～18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

文化庁「文化芸術による子供育成推進事業 巡回公演事業」

文化庁が主催する本事業は、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。東京フィルは国内オーケストラでは唯一、文化庁から8年間の長期採択を受け(2014～2021年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校115校、のべ46,279名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行い、さらに2019年度からは、これに加え、関東・東海・中国地区の小中学校61校のべ20,389名の児童・生徒に音楽をお届けしました。



小学校体育館でのオーケストラ本公演

2022(令和4)年度からは、「文化芸術による子供育成推進事業」と事業名が変更となり、東京フィルは中国地区の担当として新たに長期採択(2022～2024年度)を受けました。今年度は5月から12月にかけて、小中学校14校を訪問し、ワークショップとオーケストラ公演を開催しました。

留学生の演奏会ご招待… 留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)までお問合せください。



定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様とチョン・ミョンファン(2019年7月東京オペラシティ定期)

©上野隆文

“とどけ心に”特別招待シート

東京フィルでは2011年の東日本大震災をきっかけに、自然災害などやむを得ない事情により国や地域を問わず故郷から避難されているかたがたを当団の主催公演にご招待する取り組みを行っています。招待をご希望の方は、東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)まで、支援団体として東京フィルの演奏会を活用したいという場合は、東京フィル事務局(03-5353-9521)広報渉外部担当までご相談ください。

ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「とどけ心に”特別招待シート”」として活用させていただいております。お手元にご来場いただけない公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切にさせていただきます。

【お問合せ・お申込み】東京フィルチケットサービス

電話：03-5353-9522(10時～18時／土日祝休)

1月の演奏会のチケットのご寄附をいただきました。心より御礼申し上げます。

村田浩一、吉峯裕毅（ほか匿名希望8名）

(五十音順・敬称略)

特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンラインワンの特別企画を展開しております。

- 商品のプロモーションとして何か施策を考えたい
- 社内向けイベントで室内楽の演奏を企画したい
- 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい

どうぞお気軽にご用命ください。

【広告・協賛のお問合せ】東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部

電話：03-5353-9521（平日10時～18時） Eメール：partner@tpo.or.jp



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ヨンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otaka

大野 和土
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

アソシエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宜
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榊原 菜若☆
Namo Sakakibara

坪井 夏美☆
Natsumi Tsuboi

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

巖築 朋美
Tomomi Aschiku

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久
Saku Suzuki

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

栃本 三津子
Mitsuko Tochimoto

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美
Ikumi Hirotsawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

松田 朋子
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン
Second Violins

戸上 真里◎
Mari Togami

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

水島 路◎
Michi Mizutori

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆
Aiko Kojima

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

佐藤 実江子
Mieko Sato

二宮 祐子
Yuko Ninomiya

本堂 祐香
Yuuka Hondo

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邊 みな子
Minako Watanabe

ヴィオラ
Violas

須田 祥子◎
Sachiko Suda

須藤 三千代◎
Michio Suto

高平 純◎
Jun Takahira

加藤 大輔◎
Daisuke Kato

今川 結☆
Yui Imagawa

杉浦 文☆
Aya Sugiura

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曾和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

手塚 貴子
Takako Tezuka

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ Cellos	コントラバス Contrabasses	オーボエ Oboes	ホルン Horns	トロンボーン Trombones	ハープ Harps
金木 博幸◎ Hiroyuki Kanaki	片岡 夢児◎ Yumeji Kataoka	荒川 文吉◎ Bunkichi Arakawa	齋藤 雄介◎ Yusuke Saito	五箇 正明◎ Masaaki Goka	梶 彩乃 Ayano Kaji
服部 誠◎ Makoto Hattori	黒木 岩寿◎ Iwahisa Kuroki	加瀬 孝宏◎ Takahiro Kase	高橋 臣宜◎ Takanori Takahashi	中西 和泉◎ Izumi Nakanishi	田島 緑 Midori Tajima
渡邊 辰紀◎ Tatsuki Watanabe	遠藤 柁一郎 Shuichi Endo	佐竹 正史◎ Masashi Satake	磯部 保彦 Yasuhiko Isobe	辻 姫子○ Himeko Tsuji	ライブラリアン Librarians
黒川 実咲☆ Misaki Kurokawa	小笠原 茅乃 Kayano Ogasawara	杉本 真木 Maki Sugimoto	大東 周 Shu Ohigashi	石川 浩 Hiroschi Ishikawa	武田 基樹 Motoki Takeda
高麗 正史☆ Masashi Korai	岡本 義輝 Yoshiteru Okamoto	若林 沙弥香 Sayaka Wakabayashi	木村 俊介 Shunsuke Kimura	平田 慎 Shin Hirata	
広田 勇樹☆ Yuki Hirota	小栗 亮太 Ryota Oguri		田場 英子 Eiko Taba	山内 正博 Masahiro Yamauchi	ステージマネージャー Stage Managers
石川 剛 Go Ishikawa	熊谷 麻弥 Maya Kumagai	クラリネット Clarinets	塚田 聡 Satoshi Tsukada		
大内 麻央 Mao Ouchi	菅原 政彦 Masahiko Sugawara	チョ・スンホ◎ Sungcho Cho	豊田 万紀 Maki Toyoda	チューバ Tubas	稲岡 宏司 Hiroshi Inaoka
太田 徹 Tetsu Ota	田邊 朋美 Tomomi Tanabe	アレッサンドロ・ ベヴェラリ◎ Alessandro Beverari	山内 研自 Kenji Yamanouchi	大塚 哲也 Tetsuya Otsuka	大田 淳志 Atsushi Ota
菊池 武英 Takehide Kikuchi	中村 元優 Motomasa Nakamura	万行 千秋◎ Chiaki Mangyo	山本 友宏 Tomohiro Yamamoto	荻野 晋 Shin Ogino	古谷 寛 Hiroshi Furuya
佐々木 良伸 Yoshinobu Sasaki		黒尾 文恵 Fumie Kuroo			
長谷川 陽子 Yoko Hasegawa	フルート Flutes	林 直樹 Naoki Hayashi	トランペット Trumpets	ティンパニー& パーカッション Timpani & Percussion	
渡邊 文月 Fuzuki Watanabe	神田 勇哉◎ Yuya Kanda		川田 修一◎ Shuichi Kawata	岡部 亮登◎ Ryoto Okabe	
	斉藤 和志◎ Kazushi Saito	ファゴット Bassoons	野田 亮◎ Ryo Noda	塩田 拓郎◎ Takuro Shiota	
	吉岡 アカリ◎ Akari Yoshioka	チェ・ヨンジン◎ Young-Jin Choe	古田 俊博◎ Toshihiro Furuta	木村 達志 Tatsushi Kimura	
	さかはし 矢波 Yanami Sakahashi	廣幡 敦子◎ Atsuko Hirohata	杉山 眞彦 Masahiko Sugiyama	鷹羽 香緒里 Kaori Takaba	
	下払 桐子 Kiriko Shimobara	井村 裕美 Hiromi Imura	前田 寛人 Hirohito Maeda	中村 勇輝 Yuki Nakamura	
		桔川 由美 Yumi Kikkawa		縄田 喜久子 Kikuko Nawata	
		森 純一 Junichi Mori		船迫 優子 Yuko Funasako	
				古谷 はるみ Harumi Furuya	

◎首席奏者
Principal○副首席奏者
Assistant Principal☆ファオアシピラー
Vorspieler

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バットィストーニ、特別客演指揮者にミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルバスターコンサート』『NHK紅白歌合戦』『いないいないばあっ!』などの放送演奏により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として高水準の演奏活動と様々な教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を集めている。2020～21年のコロナ禍における取り組みはMBS『情熱大陸』、NHK BS1『BS1スペシャル 必ずよみがえる～魂のオーケストラ 1年半の闘い～』などのドキュメンタリー番組で取り上げられた。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2023, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 112th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, TPO performs both symphonies and operas regularly. TPO is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting TPO since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

TPO has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

TPO has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>    



©上野隆文

役員等・事務局・団友

役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	海老澤 敏
副理事長	大塚 雄二郎		佐治 信忠
黒柳 徹子	小山田 隆		鈴木 勲
専務理事	篠澤 恭助		鈴木 啓介
石丸 恭一	田沼 千秋		瀬谷 博道
	寺田 琢		日枝 久
常務理事	遠山 敦子		
工藤 真実	野本 弘文		
	韓 昌祐		
	平井 康文		
	宮内 義彦		

事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務・経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	武田 基樹	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志		鹿又 紀乃	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		千木 加寿子	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			二木 憲史	
	佐藤 若菜			星野 友子	
	村尾 真希子			松井 ひさえ	
				安田 ひとみ	

団友

安藤 栄作	大和田 皓	河野 啓子	清水 真佐子	長池 陽次郎	古野 淳
池田 敏美	岡部 純	近藤 勉	瀬尾 勝保	長岡 慎	細川 克己
糸井 正博	小樽 敦子	今野 芳雄	高岩 紀子	長倉 穰司	細洞 寛
今井 彰	小山 智子	齊藤 匠	高野 和彦	新田 清枝	本田 詩子
井料 和彦	甲斐沢 俊昭	坂口 和子	高村 千代子	新田 伸雄	松澤 久美子
岩崎 龍彦	加藤 明広	嵯峨 正雄	竹林 良	二宮 純	湊 貞男
植木 佳奈	加藤 博文	嵯峨 美穂子	竹林 陽子	野仲 啓之助	宮原 真弓
上野 眞行	金崎 真由美	桜木 弘子	田中 千枝	畑中 和子	山屋 房子
生方 正好	川人 洋二	笹 翠	田村 武雄	玻名城 昌子	吉田 啓義
大兼久 輝宴	木村 友博	佐々木 等	津田 好美	福村 忠雄	米倉 浩喜
大澤 昌生	黒川 正三	佐野 恭一	戸坂 恭毅	藤原 勲	脇屋 俊介

〈発行日〉2023(令和5)年2月22日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

フランチャイズ・ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉歐文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic Orchestra *無断転載を禁ず(非売品)

演奏会場の感染対策について

演奏会の開催にあたり、リハーサルから本番に至るまで、お客様、出演者、スタッフ等、すべての関係者の安全と健康を最優先に、日本国政府・東京都および関係団体から発表された新型コロナウイルス感染拡大防止のためのガイドラインに従い、舞台上・舞台裏・楽屋・客席ロビーなどにおける対策を講じております。引き続いての感染症予防のご協力をお願い申し上げます。

写真＝三浦興一／上野隆文

客席・ロビーの対策について



入場前の手指消毒、常時マスク着用、間をあけて整列をお願いいたします



入場の際に、非接触式体温計等での検温を行っています



Face Masks
Required



Physical
Distancing



Sanitizing
Stations



Frequent Cleaning
and Disinfecting



Improved Indoor
Ventilation

会場では常時マスクの着用をお願いいたします。

ロビーや客席内での会話はお控えください。

ロビー等ではお客様同士の間隔を十分におとりください。

頻回の手指消毒をお願いいたします。

場内はスタッフが消毒・清拭を行っております。

客席内は十分な換気を行っております。

ご協力まことにありがとうございます

Tokyo Philharmonic Orchestra
Season 2023



こころの時間